

「遺品整理の現場から学ぶ」～最期まで孤立しないために～

「天国へのお引越しのお手伝い」キーパーズ 代表取締役 吉田太一

★はじめに

- ・なぜ私が講師なのか？（亡くなった方の部屋に入った事が日本で一番多い人だから）
- ・遺品整理の現場から故人の生き様から学ぶ。（遺品とは？・遺品整理は考古学？）
- ・DVDの放映と制作の目的（現実を知る事によって変わる自主的な考えや行動）

★孤立死を減らすのではなく、孤立させない事が重要

- ・孤立死の実態の把握は困難（解決するには現状と実数の把握が前提だが・・・）
- ・社会から孤立していなければ死後数日発見が遅れても孤立死ではない（室内事故死）

★現場に遺された生き様から見える原因

- ・年間遺品整理件数 1600 件、孤立死の作業件数約 200～300 件（80%が男性と非常に多い）
- ・高齢者の問題だけではない？（意外に多い初代オタク世代 50 代から 65 歳までの孤立死）
- ・過去 40 年間で何が起こったのか？（1 ルーム M、コンビニ、PC、携帯、ゲーム等の増加）
- ・何故、孤立し引き籠るのか？（会社から突然突き放された不器用な中年男性の心理）
- ・バランスの崩れた人間の増加（誰にも干渉されず、不衛生で乱れた部屋で暮らす人々）
- ・本当の健康意味を忘れた人々の増加（身体的、精神的、社会的、経済的良好なバランス）
- ・若年化していく孤立化の問題（煩わしさから逃避し、便利と自由な世界で育った人格）
- ・孤立死に恐怖を感じない若者（人生の幸せ度の高い高齢者と低い 20 代の若者の心情）
- ・高齢化や少子化以上に怖い未婚者の増加問題（異性に関して興味のない若者の増加）
- ・男女共に増える単身世帯（結婚の意義の崩壊、女性の社会進出と男性の経済的不安定）

★男性と女性の違いによる要因

- ・目的、結論、同調が無いと長く話を続けられない男性、話すとスッキリする女性
- ・他人との会話のネタを持たない不器用で家庭生活で役に立たない男性（産業廃棄物？）
- ・セカンドライフを有意義に過ごせる女性、嫁が先に亡くなると生活できない男性
- ・“助けてほしい”と言えないプライドの高い不器用な男性（世話好きの女性に頼る選択）

★社会から孤立しない為に・・・（孤立と自立の違い？）

- ・現実を知り“自分は孤立死したくない”という強い気持ちを持つ事が一番の対策
- ・家族から孤立しないように意識する。（同居するよりも一人住まいのほうが気楽）
- ・親友よりも身近な友達を複数人持つ。 ※身内よりも親友よりも当てになる近くの友達
- ・自立したおひとり様は友達が多い。（一人生活を好んでいるが人付き合いは嫌いでない）
- ・若者の孤立化防止策を考える事が自身の孤立化防止対策につながる（示しがない）
- ・何歳まで生きるかを自分で決めておく事（距離と燃料を確認する…、1 年は 8760 時間）

★おひとりさまからの電話

- ・遺品整理の事前相談者の増加（大半が女性、自分の事は自分で・・・）
- ・30%は身内が居ない、30%は身内に迷惑かけたくない、30%は身内は全て拒否したい
- ・自分がまさかこの年まで生きるとは思わなかった（どうしたら上手く死ねるかしら？）
- ・質素に遠慮して大人しく生活しない事（少し可愛げを持ち、多少我ままな方が良い）

キーパーズ有限会社代表取締役 吉田 太一氏講演要旨

「遺品整理の現場から～最期まで孤立しないために～」

- どう生きて行けばいいか そのヒントをつかんでほしい。
- 年間 5、60 回、日本で初めての遺品整理専門会社を立ち上げたため、講演依頼があります。遺品が残っている家には、その人の個人の生き様、その人の生き様がわかる。
- 遺品というのは故人の最後の締めくくりですから、そういう見方を持ってお手伝いすると、自分たちが生きていく上において今後、役に立つのです。
- 人間は、亡くなったら 4 つやらなければならないことがある。①遺体を火葬して、荼毘にふすこと ②登録している人は消す。③みんなでお葬式やセレモニーをして、死んだという事実を共有する ④宗教があればそれなりの送り方をする。
- さらに、その人の生き様を消してあげる。誰かが手伝ってくれないと、自分の生き様は消せない。もし自分の体が倒れたままだったらどうなるかと。3 日もしたら内臓から腐って、死臭が漂いだします。顔色も変わってきて、だんだん泥だらけになっていきます。それを天国で見ていたら、人生で一番つらかったことよりもさらにつらいことを感じなければいけない。
- 年間で 1500 件余りの遺品整理のお手伝いをしているが、そのうち 300 件くらいは孤立死。基準は、吐血の跡、シミ、ハエが飛んでいる、死臭のにおいがするなどの形跡が残っている場合、しかも数日経っていると思われる場合。このような現場にいたら部屋で亡くなった人たちが、こうなってはいけないと教えてくれる。
- 社会から孤立している人が亡くなるから孤立死。だから、孤立死を減らす必要はない。孤立している人を減らせばいい。
- 人数的には高齢者よりも若い人の方が孤立しているケースが多い。ただ、死なないだけ。
- なぜ孤立死がいけないのか？隣や近隣の住民が虫や臭いの影響を受けて、日常生活を送れなくなるかもしれない。そういう死に方は良くない。亡くなる寸前に看取ってほしいと思う人はそう多くない。1 人で死ぬのは構わないが、せめて誰か 1 人 24 時間以内におかしいと感じ異変に気付くという生き方をしてほしい。
- 見守りは虐待されている人や認知症の人を早期発見できるかもしれない、そのついでに見守っているだけ。
- これから孤立社会、未婚社会、無責任社会になる。好転する可能性はほぼゼロ。1 人くらい若い子を捕まえて、人間関係を大切にしなさいよと訴える時代。自分たちが孤立しない一番の方法なのです。
- いつ死ぬかを決めて、おとなしく生活しないこと。そういう風に生きてほしい。
- おひとりさまでもだいじょうぶノート＝生きるためのノート。おひとりさまが書いておくべきもの。最低限知っておかなければいけないもの、ページ数を少なく、文字をできるだけ大きく、見やすくした。利用してほしい。以上（文責事務局古山）